



道岡知美 Tomomi Michioka

広島中央警察署 横川交番 巡査長
(2006年3月法学部卒業)

人と接する仕事。すべての基本はコミュニケーション。

いつから警察官になろうと?

小さいころ、町でがんばっている女性警察官を見て、「カッコいい、自分もなりたい」と思うようになりました。アナウンサーや検察官という職業にあこがれたこともありますが、警察官はいろいろな人と接する仕事だし、住民との距離が近いところに一番魅力を感じたんです。



その夢に向けて、幼いころから空手を習い、大学在学中も1年間、町の道場に通いました。警察官に必要な普通

二輪免許を取得したり、広島県警察の「減らそう犯罪」広島県民総ぐるみ運動のキャンペーン活動や「安全マップ」を作る企画に参加したりしました。大学の中だけでは学べない貴重な経験が、現在、市民に対する防犯指導に役立っています。警察官は法律にのっとって仕事をする職業なので、法学部の授業もまじめに受けました。

仕事でこだわっていることは?

「人」を相手にする警察官の仕事。交番では、落とし物、地理案内、各種相談への対応から事件・事故処理まで、あらゆることに対応していますが、すべての基本は「人とのコミュニケーション」です。相手からいかに話を聞き出すかが、本当に重要だと思います。日々の仕事を通して、「自分にもっと相手を納得させられる話術があれば…」と感じることもしばしば。経験の浅い私には、まだ会話力が備わっていないと痛感させられます。

交通違反の取り締まりを行っている時、納得されない方も多そうですね。そんなときは、相手の立場に理解を示しつつ、なぜ取り締まりを行うのか目的を明確に説明することが大事です。そうすれば、「事故を起こす前に警察官に止めてもらって良かったわ。ありがとう」と言ってくれる方も。いろいろ言われてつらい時もあるけれど、きちんと説明して良かったなと思います。事故を未然に防げたかもしれないと思うとうれしいです。



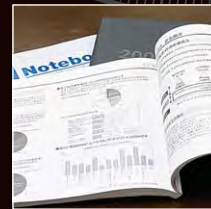
これからの目標は?

仕事がある日は24時間勤務なので、忙しい時は一睡もできないことも。「大変な仕事だな」と感じているのですが、やめたいと思ったことはありません。体力勝負の仕事ですから、普段から睡眠・食事をしっかりと、体力づくりをしています。外食は控えて毎日お弁当を作ったり、休みの日に河川敷を走ったり。体調管理は、とても大事ですね。

将来は、専門的に一つの事件を取り扱える警察官になりたいです。以前から防犯活動に興味があったので、犯罪はなぜ起きるのかを学び、経験を生かして犯罪を未然に防ぐことが最終的な目標です。例えば、ひったくりの多発する道では、車の進行方向とは逆側を歩き、かつ車道側と反対の手にカバンを持つ。それだけで犯罪に遭う確率ってずっと減ります。そういう意識を市民の方に持ってもらい、犯罪に遭う機会の減少に努めたいです。

社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきこと、はたまたプライベートの話まで、私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤 O&O 紹介



入社への動機と現在の仕事内容は?

学生時代に演劇部で演出を担当していたときから、「何かを作り上げたい」という思いがあって、広告会社に就職しました。ポスター1枚でも、広告には人の心を突き動かす力があります。感覚に訴えるアナログな部分と、マーケティングや市場分析で得た数字を積み上げるデジタルな部分が両立している広告が、僕は大好きです。本来反対側に位置する二つの要素が、うまくかみ合わさって世に出ているのです。



われわれの仕事は、得意先の抱えている課題に対して、ソリューションを提案することですが、言い換えれば人と人をつなぐ仕事です。メーカーや流通などの得意先が、そのお客さまとうまくコミュニケーションを取れるようにお手伝いをします。もちろんポスターやパンフレットも作成しますし、イベントを企画することもあります。

働いてみて感じることは?

すごく華やかな世界だと思っていましたが、そこは違いました。チラシの文字校正など、地味な仕事の積み重ねが多く、目立つ部分はほんの一部です。それでも、自分のかか

わる商品が、世の中に受け入れられ広がっていくのを実感できるのは、この仕事ならではの醍醐味です。

心掛けていることは?

得意先の要望をそのまま受け入れると、実際に買うお客さまのニーズに合わない場合があります。「得意先」「生活者」「広告会社」の3つの視点で考えることが不可欠です。「なるほど。そっちがあったか」と言ってもらえる提案をするために、普段の生活でも、常にアンテナを張っておくことを心掛けています。あとは、実際に店を回り商品を手にとってみたり、どんな人が買っているのかを見たりすること。足を運んで見る現場は、感じる人が多いですね。

広大生へメッセージを!

学生と社会人を無理に線引きせずに、「社会人は学生の延長線上」と考えてみたらどうでしょう。当然責任は持ちながらも、学生以上に楽しむこともできます。やりたいことがなく悩んでいる人は、興味のあることを見つけて、まずはやってみて、それから考えるのもありだと思います。僕は、さまざまな業種の方と仕事をしますが、それぞれ異なる考え方や価値観は、どれも新鮮で面白いと感じます。



本やインターネットだけでは見えない部分がたくさんあるので、いろいろなことに関心を持ち触れることが一番大切だと思います。



川森大典 Hironori Kawamori

株式会社中国博報堂 営業開発部AE(アカウント・エグゼクティブ)
(2005年3月 教育学部卒業)

さまざまな視点から考えて、果敢にチャレンジする。

取材を終えて



道岡さんの凛とした制服姿を見て、声に出せない興奮を抑えながら、心の中で思わず「カッコイイ!!」と叫んでいた私。それは、在学中の「明るく優しい先輩」から「カッコイイ大人の女性」に変わった瞬間でした。警察官になるためのひたむきな努力と、明確なビジョンを持って仕事に取り組んでいる話を聞いて、とても刺激を受けました。私も見習いたいと思います。

取材・記事 / 教育学研究科M1 宮永 静



しっかりとしたプランを持って、本当に仕事を楽しんでいるのが伝わってきました。学生時代は演劇をされていたこともあり、非常にハキハキとした受け答えが印象的で、社会人として見習うべき点が多く見つかる取材でした。私も、川森さんのように、自分のやりたいことに全力を注げるアツい人間を目指します!

取材・記事 / 総合科学部4年 高浪 徹也